

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

高齢者は横断歩道を渡る前に左右確認をしているか？

DATA 基礎情報

歩行中に亡くなった高齢者の約4分の1は横断歩道で事故に遭っている

警察庁の資料によれば、2021年の高齢者（65歳以上）の歩行中・交通事故死者数（第1・第2当事者※）は693人で、事故類型別にみると、その7割以上が道路横断中だった。さらに、横断歩道を横断中は180人（26.0%）となっており、約4分の1を占めている。

高齢者は、実際に横断歩道をどのように渡っているのだろうか。今回は、東京都内の信号機のある横断歩道と、信号機のない横断歩道で渡る前の左右確認状況を観察した。

また、信号機のない横断歩道では、高齢者が渡る前に手を上げるなどの意思表示をしているかについても観察した。

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽い者、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

WATCHING 観察

信号機のない横断歩道では高齢者の半数近くが左右を確認

観察場所は、文京区の千川通りにある信号機のある横断歩道（A）と、その近くにある信号機のない横断歩道（B）。2つの観察場所の間にはスーパーマーケットがあり、買い物をする目的にしていると思われる高齢者が横断歩道を利用していた。

2時間のうちに観察場所Aを横断した高齢者は99人で、横断する前に左右確認をした人は11人（11.1%）だった。信号待ちで立ち止まっている場合を除いて、横断する前に止まって左右確認をする歩行者は全年齢層でいなかった。多くの歩行者が左右確認をすることなく、歩行者用信号だけを確認して横断歩道を渡っていた。

観察場所Bを横断した高齢者は48人。ここは交通量が少ないものの車両の往来があるため、22人（45.8%）が横断する前に左右確認をしていた。ただし、明らかに車両がないとわかる状況では、多くが左右確認をせずに横断歩道を渡っていた。横断歩道以外での横断や、斜め横断は若い世代より高齢者に多く見られた。横断する前に手を上げるなどの意思表示をした高齢者は、一人もいなかった。両手に買い物袋を下げて歩く高齢者も散見され、このような場合は手を上げることが難しいと思われた。

また、70代以上の高齢者は歩行補助車（手押し車）や買い物カート、杖を使っているケースが多かった。そのため、常に視線を下に向けている傾向もあった。観察場所Aでは17人（17.2%）、観察場所Bでは10人（20.8%）が視線を下に向けたまま横断していた。



横断歩道以外の場所を渡る高齢者。日傘を前に傾けているため、周囲の様子がわかりにくいように思えた

ADVICE アドバイス

信号機の有無にかかわらず周囲の安全を確認してから横断を

今回、高齢者を対象に観察したが、高齢者以外の歩行者も同様に左右確認をしていなかった。横断歩道を利用している、車両の運転者から見落とされる場合もある。信号機の有無にかかわらず、横断歩道を渡る前に顔を上げて周囲の安全を確認してほしい。信号機のない横断歩道や、やむを得ず横断歩道の

ない場所を渡る時は、特に、横断の後半に左側から車両が接近していないか確かめてほしい。

観察中、赤信号に気づかず横断歩道を渡ってしまい、クルマにクラクションを鳴らされた高齢者もいた。高齢者は身体機能の衰えにより、視力の低下や耳が遠くなってクルマの接近に気づきにくくなったり、歩く速度が遅くなるなど、周囲の予想に反した行動をとることもある。車両の運転者は、横断歩道で歩行者保護をすることはもちろん、高齢者の行動特性を踏まえた危険予測を心がけてほしい。

観察結果

観察場所 A・B

観察場所/東京都文京区小石川
観察日/8月19日（金）
観察時間/10:00～12:00
天候/晴れ

●高齢者*（65歳以上）の左右確認状況

観察場所 A (信号機あり)	左右確認をした	11人 (11.1%)	視線を前に向けていた	82人 (82.8%)
	左右確認をしなかった	88人 (88.9%)	視線を下に向けていた	17人 (17.2%)
合計	99人	合計	99人	

*高齢者（65歳以上）の判断は観察者の見解による。



観察場所Aは丁字路で横断歩道が3ヵ所ある



杖や買い物カートの利用が高齢者には多く見られた



歩行者のほとんどが横断中に周囲を見回すことはなかった

●高齢者*（65歳以上）の左右確認状況

観察場所 A (信号機あり)	左右確認をした	22人 (45.8%)	視線を前に向けていた	38人 (79.2%)
	左右確認をしなかった	26人 (54.2%)	視線を下に向けていた	10人 (20.8%)
合計	48人	合計	48人	



観察場所Bは十字路で横断歩道が4ヵ所ある



周囲を見回しながら手押し車を押して横断する高齢者



一時停止標識を無視する自転車がいるため、左右確認は重要